

西条市民の親水空間に対する意識調査

愛媛大学工学部 正会員 柏谷増男 愛媛大学工学部 正会員 朝倉康夫
愛媛大学大学院 学生員 ○渡部考議 八千代エッセイ・アソシエーツ 正会員 河野佳恵

1. はじめに

近年では水辺空間の価値も見直され、流域住民も水辺空間に多様な利用機能、景観の美しさ、利便性、快適性を求めるようになってきた。このような社会背景のもとで、全国屈指の水に恵まれた西条市に、山間部の黒瀬ダム、従来から市民に親しまれてきた加茂川、市内に最近整備されたアクアトピア水路等の特徴のある水辺空間が存在している。そこで本研究では、西条市民の水辺空間利用実態に関するアンケート調査を行い、今後の水辺空間整備の指針にすることとした。

2. 調査の概要

西条市に居住する市民、または西条市内に勤務する人々を対象に、平成3年9月にアンケート調査を実施した。調査内容は、西条市全域にわたる代表的な18地点(図-1)の利用実態、及び黒瀬ダム・加茂川・アクアトピア水路の水辺空間についてのイメージ評価・要望・比較等、個人属性など19項目である。また、全回答者数は754人であった。

3. 西条市の水辺空間に関する分析

図-1に記載している水辺空間で、利用順位(1位～3位)の集計を行ったものが図-2である。これを見ると、第1位に武丈周辺を挙げる人が約半数を占め、その下流域である加茂川河口や加茂川下流部など、加茂川の利用者が多い。また、お堀・観音水などのアクアトピア水路、及び黒瀬ダムの利用者が多い。つまり、この3つの水辺空間は、西条市で利用機会が多い水辺空間であることがわかる。

次にこれらについて、利用実態と要望を示したものが表-1である。アクアトピア水路では、利用頻度に個人差がみられ、散歩など活動の目的意識が薄く、ベンチや木かげなど落ち着く空間が求められている。加茂川では、芋たき・お花見・祭りなどの活動時季に集中して利用されているといえ、くつろげる場所に加え、便所や芝生広場などの要望も多い。黒瀬ダムでは、利用頻度が低く、利用形態も加茂川ほど明確でない。また、くつろげる場所に加え、遊水施設の要望が多い。

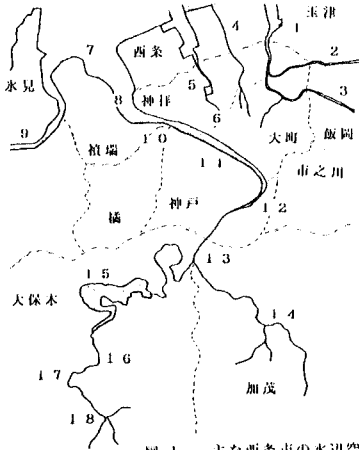


図-1 主な西条市の水辺空間

- 5. お堀
- 6. アクアトピア
観音水
- 8. 加茂川河口
- 10. 加茂川下流部
- 11. 加茂川
武丈周辺
- 15. 黒瀬ダム

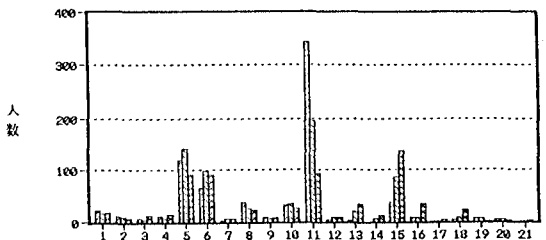


図-2 各水辺空間における順位別の利用数
■第1位 ■第2位 ■第3位

表-1 よく利用される水辺空間の利用実態と要望

水 辺 空 間		カテゴリー (20%以上)		
		利用頻度	利用形態	整備施設の要望
アクアトピア 水路	お堀	年に数回 月に1回程度 ※個人差がある	散歩 祭り・行事 特に目的なし	ベンチ、休憩場 木かげ 駐車場 便所 お花畑
	観音水	年に数回 ※個人差がある	散歩 特に目的なし	
加茂川	武丈周辺	年に数回	芋たき等の飲食 お花見、祭り・行事 散歩、水遊び	ベンチ、休憩場 便所 木かげ 芝生広場 お花畑 サイクリング道
	加茂川 下流部	年に数回 年に1、2回	水遊び	
	加茂川 河口	年に数回 年に1、2回 ※個人差がある	釣り 水遊び	
黒瀬ダム	黒瀬ダム	年に1、2回 年に数回	散歩 特に目的なし ピクニック	ベンチ、休憩場 魚釣り場、遊歩道 便所、駐車場 サイクリング道 水辺の散策路 水辺に続く階段

4. 各水辺空間のイメージ評価

前述の3つの水辺空間について、「美しい-醜い」「明るい-暗い」等の10個の形容詞対に対するイメージ得点の平均値をプロットしたものが図-3ある。

黒瀬ダムは、「静かな」、「自然が豊か」、「水が豊富」といったプラスのイメージがある一方、「野暮ったい」、「暗い」、「馴染みがない」などマイナスイメージをもたれている。市街から遠距離であるが、「遠く離れた」というイメージをそれほどもたれていない。また、ダムという人工的建造物に対し「人工的」だと評価されていない。

加茂川は、全体的にイメージ得点が高く、特に市街のアクアトピア水路より「手軽に行ける」イメージをもたれている。

アクアトピア水路は、全体的にイメージ得点が低く、特に「人工的」、「窮屈な」、「きどった」、「うるさい」などマイナスイメージをもたれている。「手軽に行ける」プラスイメージの得点が高いが、加茂川に比べると遠いイメージをもたれている。

5. 個人属性による判別要因

3つの水辺空間を対象とした嗜好と利用の比較順位について、黒瀬ダムとアクアトピア水路における1位と3位の2群を外的基準とした数量化理論Ⅱ類による分析結果を表-2に示す。

黒瀬ダムについては、「20歳未満の人」、「東西の海岸地区及び西部地区の人」、「市外で生まれ育った人」が好んでよく利用しているのがわかる。また「旧市内地区の人」は、逆の結果となっている。

アクアトピア水路については、若年齢層と高齢層が矛盾した結果となっているが、これは利用形態による差異が原因であると思われる。また、アクアトピア水路のある「神拝」地区の人しか利用してい

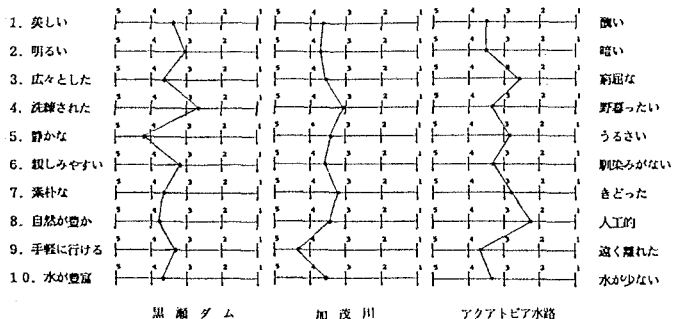


図-3 よく利用される水辺空間のイメージ評価

表-2 嗜好と利用の判別属性要因

水辺空間	アイテム アイテム レンジ (a)左 (b)右	カテゴリー (1カテゴリースコア ≥0.3)			
		(a) 好きな順位		(b) よく利用する順位	
		1位 (好きな人)	3位 (好きな人)	1位 (する人)	3位 (しない人)
黒瀬ダム	性別 (0.39:0.53)			女性	
	年齢 (1.37:1.29)	20歳未満 30代	40代	20歳未満 50代	60代
	居住区 (4.34:3.69)	福岡 水見 橘 福岡	福岡 西条	水見 橘 神拝 福岡	西条 神拝 大町
	居住経験 (1.11:3.32)	市外で生まれ育った	主に西条市に住んでいる	市外で生まれ育ち 最近(5年以上) 西条市に住んでいる	最近(5年以内) 西条市に住んでいる
アクアトピア水路	性別 (0.48:0.01)	女性			
	年齢 (3.06:1.82)	20歳未満 50代 20代	60歳以上 30代	60歳以上 50代	20歳未満 30代 20代
	居住区 (2.21:2.50)	福岡 神拝 西条 水見	橘 神拝 大町	神拝	神拝 福岡 大町 玉津
	居住経験 (3.67:2.26)	最近(5年以内) 西条市に住み、西条についてはそれまでほとんど知らなかった	最近(5年以内) 西条市に住み、西条のことは以前からよく知っていた	市内で生まれ育った	市外で生まれ育った

ないのがわかる。居住経験では、「以前から西条のことをよく知っている人」は好まないが、関心があるといえる。

5. おわりに

本研究により、西条市内に存在する水辺空間の利用実態と市民の評価意識を把握できた。今後の課題として、居住経験と活動パターンの関連性について更に分析をする必要がある。

最後に、アンケート調査に御協力頂いた西条市民の方々に感謝を申し上げます。